

帝京平成大学大学院
論文審査結果の要旨

氏 名	篠原 大侑		
論文名	鍼刺激による予防的介入が視覚性動揺病に及ぼす影響：Sham 鍼の開発および妥当性の検討からランダム化比較試験の実施		
審査委員	区 分	職 名	氏 名
	主 査	教授	内田 俊也
	副 査	教授	永井 知代子
	副 査	教授	久島 達也
要 旨			
<p>I. 当該研究に関して</p> <p>① 既知の事実：これまでに何が分かっているのかという点が明示されているか？ 申請者は修士課程において Virtual Reality (VR) 技術を用いた視覚刺激により視覚性動揺病を引き起こすモデル実験を確立し、鍼刺激によって各種自律神経症状の出現と程度の抑制を主観的指標から捉えた。今回の博士課程においては、臨床試験として視覚性動揺病モデルに対する鍼刺激の作用を詳細に確認し、検討した。</p> <p>② 新規性：本研究で明らかになった新しい知見が根拠をもって示されているか？ 動揺病に対する鍼刺激の作用をプラセボ鍼と明確に区別するために、新規のプラセボ鍼を創作した点は新規性が高い。そして、そのプラセボ鍼との比較で RCT を施行したことも独創性が高いと思われた。</p> <p>③ 限界：本研究で明らかにできなかったことが的確に述べられているか？ RCT の対象が、3 年次と 4 年次の学生であるため、幅広い年代での検討がなされなかった。また、RCT では有意な結果が得られなかったことを明らかに述べていた。</p> <p>④ 倫理：倫理的配慮は適切であるか？ 本学の倫理委員会の認可を得ており問題ないと思われた。</p> <p>II. 審査結果の結論とその理由</p> <p>① 本研究の優れた点 プラセボ鍼を独自に開発したことで RCT を構築して実施したことである。</p> <p>② 本研究の問題点と今後の研究への示唆 研究対象が若い年代に限られており、今後は幅広い年代への拡大が必要である。VR による動揺病が、いわゆる乗り物酔いと発生機序が同じであるかの検討が必要である。</p> <p>③ 申請者の知識・理解の程度 周辺知識と経験について十分であると認められた。</p> <p>④ 結論：学位授与は可であると認められた。</p>			

(注) 2000 字程度でまとめること。